

自然保護の窓

1. 第12期保護委員会の体制と活動概要について

理事：河村正二，竹ノ下祐二，大井徹（計3名）

幹事：大石高生，長田直樹，白井啓，友永雅己，中村紳一朗，半谷吾郎，森村成樹，藤田志歩（計8名）

ニホンザル保護のための理念・理論の整理と現状把握，問題提起，霊長類の飼育・実験のためのガイドライン作成，外来種問題を含めた霊長類保護のための活動支援，行政の施策に対する提言，情報発信などに取り組んでいます。

2. 東日本大震災で被災した金華山の調査施設修理費用の支援について

ニホンザルの保全活動の一環として，東日本大震災で被災した金華山の調査施設の修理費用50万円を，宮城のサル調査会に対し支援しました。調査施設は宮城のサル調査会のみならず，他の研究者などが行う研究，野外教育に広く活用されてきました。そして，ニホンザルの保全に関する知見を含め重要な研究成果をあげてきました。施設の修繕を支援することにより，調査研究や野外教育活動が滞ることなくさらにすばらしい成果が生み出されることを期待しました。この支援に対し，調査会会長から学会長宛の礼状とともに報告書が届きました。

3. 第21回「ニホンザル」バイオリソース運営委員会オブザーバー参加

平成23年10月13日（木）に自然科学研究機構・岡崎統合事務センター棟・第1会議室で第21回「ニホンザル」バイオリソース運営委員会が開かれ，日本霊長類学会からオブザーバーとして河村正二（理事），古市剛史（理事），大石高生（保護幹事）が出席しました。

日本霊長類学会では，1) 野生動物の保全，2) 実験動物に対する動物福祉あるいは生命倫理面での配慮，3) 社会的コンセンサスを得ること，を原則とする動物実験のあり方を重視してきました。研究用サル類の繁殖コロニーを設立し，安定供給体制を整備している「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト（NBR）にも計画に関心を持ち，NBR運営委員

会への出席などを通じて，保全・福祉等の側面で助言・議論など積極的に行っていきます。

4. テレホンカードの処分と第27回大会での寄付金について

第27回総会での承認にもとづき，過去に自然保護委員会で作成したテレホンカード（50度数）の在庫を処分します。まず，2011年9月30日を期限に，会員のみなさまに1枚300円で販売しました。売上は，253枚，75,900円ありました。売れ残った分は，今年度中に換金します。また，日本霊長類学会第27回大会以降に，計900円のご寄付を頂戴いたしました。ご寄付およびテレホンカードの売り上げは，自然保護委員会の収入とし，霊長類の保全と福祉のために活用します。ご協力いただいた方々に心より感謝いたします。